

## 週日の説教

金 大烈 神父 2011年1月6日(木)

### 《自分自身だけの聖書》

今、私たちは「毎日のミサ」の本を持ってミサに与っていますね。韓国でも、この本を使ってミサに与る人が9割以上だと思います。「毎日のミサ」は、カトリック中央協議会が作ったもので、韓国の場合は、カトリック中央協議会の利益の9割は「毎日のミサ」によるものだそうです。韓国はカトリック信者がたくさんいるので、毎月かなりの冊数が印刷されるからです。もちろんこの本によって、宣教を受ける人もいるのでしょう。しかし、私は少し抵抗を感じています。この本があるために、聖書から遠ざかってしまいます。カトリック信者なのに、聖書を読む人はほとんどいません。そして、家族の聖書でなく、個人の聖書を持っている人も少ないのです。家のどこかにはあるから、祭壇の上に1冊あるから、本棚にあるから、といった状態です。

以前私がいた小教区では、全ての信者が自分の聖書を持ってミサに与るようにしました。最初はやはり、面倒だという反発がありました。しかし、朗読は担当者が読みますが、福音はその聖書を使って、私と一緒に読みました。最後まで一緒に読みました。そのような習慣が身につくと、いつの間にか信者の一人一人が教会用のバッグを用意するようになりました。その中には、聖歌集、ロザリオ、祈りの本、そして女性ならばミサベールなど、教会で使う全てのものを入れておき、教会に行く時には、そのバッグを持って行くようになりました。

なぜこのようなことを考えたと言いますと、カトリック教会はご聖体を中心、プロテスタント教会は聖書が中心、と勘違いする人がたくさんいるからです。実際には、カトリックの考えでも、ご聖体とみ言葉とを分けて考えてはいないのに。

皆様は、聖書の中に書き込みをしてよいと思っていますか？ してもよいのです。聖書を読んだ時に思い出した内容とか、誰かが説明した内容を書き込みことができます。

私には少し悔しい思い出があります。父は、40年間使い続けた聖書を持っていました。その聖書は、中身が見えないくらい父の書き込みがされていました。父は、それを亡くなる前に兄に譲ったのです。兄は今も一番大事な宝物にしています。私たちもこのように書き込みをした聖書を持っていたら、恰好いいと思いませんか。そして命が終わる時に、誰かに捧げられれば、素晴らしいと思いませんか。

強制はしませんが、一人一人が、字を読めない子どもでも、自分の聖書を持っていたら将来このようなことができるかもしれません。幼稚園に入るくらいの子どもの、親が最初にプレゼントする本として聖書をあげたら、恰好いいですね。そのような子どもの頃から、信仰の環境を親から与えられれば、その子どもは絶対に道はずれません。

聖書は1冊4~4000円ですから、決して安いものではありません。しかし、子どもならば、旧約聖

書は難しいですから、新約だけの聖書でもよいでしょう。そのような気持ちで、私たちが聖書と仲良くなれば、もっとみ言葉に触れ合う時間が増えるのではないかと思います。